www.gakurin.co.jp

NO. 201 共創ネットワーク

学林舎情報

●発行日：2019年4月20日（土）

〒661-0035　兵庫県尼崎市武庫之荘3-19-3　TEL 06-4962-5876　FAX 06-4962-5877　e-mail　info@gakurin.co.jp

発行：教材出版 学林舎

GAKURINSHA TOPICS

2019年教育の行き先
大学入学共通テストで何が変わる

2020年度より、これまで行われていた大学入試センター試験に代わって、大学入学共通テストが実施されます。大学入試センター試験では、学力の３要素のうち、主に「知識・技能」が問われてきましたが、大学入学共通テストでは、「知識・技能」に加え、「思考力・判断力・表現力」が問われるようになります。そのため、出題形式や解答方式が大学入試センター試験から変更になります。

さらに、大学入学共通テストでは、英語の問題そのものだけではなく、英語学力の評価方法についても大きく変更されます。民間で実施されている試験を活用して、英語の４技能（読む・聞く・話す・書く）が評価されます。

今回は、先行して実施されている大学入学共通テストの試行調査（プレテスト）の出題内容を踏まえ、大学入学共通テストに向けて準備するべきことについて考えていきたいと思います。

まず、試行調査（プレテスト）では、全教科を通じて知識そのものを問う問題が大きく減り、問題文をよく読まないと解答できない問題が増えました。問題文に日常的・社会的な話題を取り入れられ、資料やデータ、会話文などがの様々な素材を速く正確に読み取る力が求められました。このような形式の問題に対応するためには、文章を読むときや書くときに必要な論理的思考力を身につけることが重要となります。これを身につけるには、はじめから難しい文章を読むのではなく、簡単なものから始めて、徐々にレベルを上げて読解・表現できるようにすることが効果的です。

出題形式に注目すると、まず、マークシート方式の問題では、選択肢の中に正解がないものや、正解が複数あるものも出題されました。次に、記述式の問題では、「理由」や「方法」を説明する問題が出されました。マークシート方式の問題は、解答形式が少し変わるだけなので、過去問を利用して対策することが可能です。記述式の問題では、「なぜそう考えられるか」「どうすれば結果が得られるか」を言葉でまとめる力が必要になります。これらは中学校や高校での定期テストなどで慣れた解答形式ですので、特別な対策をする必要はないと考えられます。まず、学校で使っている教科書や問題集に載っている問題を解けるようにすることが大切です。その上で、教科書で扱われている題材について、ここでは何が説明されているのか、そこから何がいえるのかといった問題意識をもつことが重要となります。しっかりと考える学習習慣をつけることで、大学入学共通テストに対応できる力を身につけることができるでしょう。

また、英語については2020年度から2023年度までは民間の資格・検定試験と併行して大学入学共通テストも実施され、各大学はいずれか、または双方の試験の結果を利用することができます。試行調査（プレテスト）では、リーディングは、設問文が全て英語でかかれているうえに文章量も増えており、語法・文法の単独問題はなく、読解問題では日常的なものも含めて幅広い素材が扱われました。リスニングは、聞き取りと同時に、問題冊子から読み取らなければならない情報量が多い問題が出されました。これらの傾向から、リーディングでは、速く正確に英文を読むことが必須となります。まずは、ゆっくりでも英文を正確に読めるようにして、そこから速く読む練習を積んでいきましょう。リスニングでは、音声を頭の中の知識と結びつけ、聴いて理解できるかが問われています。単語や

熟語を覚える際には、音声も一緒に覚えることが大切です。

民間の資格・検定試験では、「話す」「書く」ことへの対策が大きな課題となります。文章を読むときに目で見て意味を理解するのではなく、声に出して読んでみる、書いてみることが効果的と考えられます。「読む」「聞く」「話す」「書く」を分けて学習するのではなく、常に関連づけて学習する意識をもつことが大切です。

また、民間の資格・検定試験はひとつではなく、多数の種類があります。それぞれの試験は、異なる活用目的に沿って作られているため、試験の内容・レベル・形式も様々です。受験する大学によっては、で大学入学共通テストと民間の資格・検定試験のそれぞれに合わせた形で対策していくことが大切となります。

（文／学林舎編集部）

2019年学校の行き先
国立・私立・公立（小学校）の違い

昨今、幼少期の教育の重要性が頻繁に語られるようになり、それに伴い小学校受験を考える家庭が増えています。また、共働きで世帯収入の高い家庭が多くなり、子どもの教育にお金を掛ける親が増えた影響から、小学校受験の志願者数の割合は年々増加傾向にあります。小学校受験の選択肢は私立小学校と国立小学校が挙げられますが、これらにはどのような特徴があるのでしょうか。また、公立小学校との違いはどのような点なのでしょうか。学習という視点から、公立小学校との違いについて解説します。

そもそも公立小学校とは、各市町村により設置され、各地域の教育委員会が税金で運営・管理をしている学校のことです。その地域に住む就学年齢に達した子どもであれば、誰もが入学することができます。私立・国立・公立問わず、授業は文部科学省が定めた学習指導要領に沿って進められますが、公立は特にその傾向が強く、公立小学校間での学習内容の差はほとんどありません。

これに対して、私立小学校とは、主に学校法人が運営している小学校のことです。学校独自の教育理念を掲げ、特色のある学習カリキュラムに基づき授業を進めている学校が多くあります。例えば、外国人講師による「All English」の授業を１年生から毎日行っている学校、「先取り学習」を取り入れ、６年生のうちに中学準備を始める学校などです。他にも、農業体験や日本の食文化や食事マナーについて学ぶ本格的な「食育プログラム」を取り入れている学校もあり、それぞれ特徴のある授業を展開しています。私立小学校では、社会の変化はもちろん、児童や保護者の要望が重視され、それらが学習カリキュラムに反映されやすいことも特徴のひとつです。また、基本的に教員の転任がないため、一貫した教育方針をとることができます。

次に、国立小学校とは、国立大学が運営している学校のことです。教育学部附属の学校が多く、教員養成の場として、さらには先進的な教育理論や教育手法を研究する実験校として位置づけられているため、研究段階にある新しい形の授業が積極的に導入されています。ある音楽大学の附属小学校では、多彩な音楽の授業が行われており、１年生から様々な英語の歌に触れています。英語独特の音を理解し、英語力を伸ばすこともその目的です。また、電子黒板やタブレットといったICT（情報通信技術）を積極的に導入し、それらを連動させ、電子黒板に一人ひとりの考えを映し出している学校もあります。クラス全員で考え方を共有し、思考を深める授業に役立てています。そして、これは私立小学校にも言えることですが、中学校のように「教科担任制」を導入し、それぞれの教科の専門の教員から授業を受けることができる学校もあります。

このように、私立小学校や国立小学校と公立小学校を比べると、学習の形や内容に大きな違いがあります。私立小学校や国立小学校でも一括りに説明することは難しく、学校ごとにそれぞれ違った特徴や個性がみられます。ここでは学習面にしか触れませんでしたが、それ以外にも様々な違いがあります。

社会がめまぐるしく変化していく中、様々な学びの形が生まれており、子どもたちが選ぶことのできる進

路も多様になっています。進路の選択肢が増えている今、私立・国立・公立という枠だけにとらわれず、それぞれの学校の特徴を理解し、子どもたち一人ひとりの個性に合った学校を選ぶことが大切なのではないでしょうか。（文／学林舎編集部）

2019年学習の行き先
生活習慣の違いが学習につながる

近年、子どもを取り巻く生活環境は、めまぐるしく変化し続けています。昔の光景としては、季節を問わず外で元気に遊ぶ子どもの姿が目に浮かびますが、現代の多くの子どもは、休日のみならず平日の放課後も、塾や習い事など、大人も顔負けの忙しい生活を送っています。一時、ゆとりある教育を目的として施行された「ゆとり教育」もあまり効果は出ず、平成が終わり令和の時代に入ろうとする今も、その忙しさは留まりそうにありません。このような変化の背景には、戦後から始まった学校での詰め込み教育、核家族化や少子化の進行に伴う家庭における教育環境の変化、そして厳しくなり続けている受験戦争などがあります。

このように、昨今の子どもは学力を高めるという目的のもとに忙しい生活を送っているのですが、その忙しさは彼らの学習を阻んではいないでしょうか。小学生を対象にした、心身疲労状態に関するあるアンケートによると、小学生が自覚している症状は、１位が「あくびが出る」で20％強、２位は「眠い」で15％強、３位は「横になりたい」で15％と、全て睡眠不足に関係する疲労でした。さらに続く４位は「目が疲れる」で15％弱、５位は「ちょっとしたことが思い出せない」で15％弱と、学習の障害となる心身疲労であることがわかります。こうした疲労の大きな原因の１つは、詰め込まれすぎた教育です。子どもの学力の向上を目的として生じた忙しさが生活リズムの崩れに繋がり、皮肉にも彼らの学習を妨げる大きな一因になっているのです。

健康的な生活を送るポイントは、食事、運動、睡眠など様々ですが、子どもの学力にとって特に影響のある事柄は睡眠であると考えられます。平成18年に山口県で行われた調査によると、夜９時までに寝る子どもの偏差値は高く、それ以降に寝る子どもの偏差値は低いと言う傾向が出ました。早寝早起きが生活のリズムや健康状態を整え、学習能力の向上にもつながるのです。

人間は体内時計というものを持っています。１日は24時間ですが、人間の体内時計は24時間よりやや長いと言われています。それでは、どのようにして私たちは体内リズムを24時間に合わせているのでしょうか。答えは、光です。私たちは朝、太陽の光を浴びることで体内時計を少し進ませ、調節しているのです。忙しいがゆえに生活リズムが乱れ、学力が伸び悩んでいる子どものためにまず簡単に出来ることは、１日の始めにカーテンを開けて朝日をきちんと浴びさせることです。曇りの日の少しの光でも、体を目覚めさせるには十分だと言われています。朝きちんと目覚めることで夜は早めに眠くなり、早寝早起きを定着させることができるでしょう。

また、現代には太陽の光以外にも様々な光が存在します。スマートフォンやテレビ、パソコン…夜でも私たちの部屋は明るく、たくさんの光にあふれています。多くの子どもが、スマートフォンやテレビ、ゲーム機などの最新の電子機器を使用しています。動画を見たりネットサーフィンをしたりすることも、彼らにとって当たり前となりつつあります。夜にそれらの光源を直接、長時間見ることによって、体内時計の調節がうまくできなくなり、寝る時間が遅くなってしまうことも、睡眠を阻んでいる要因の１つです。しかし、突然子どもから電子機器を取り上げるのも難しいでしょう。スマートフォンやゲーム機、パソコンを触ることが多い子どもに対しては、一気にやめさせるのではなく、１日の使用時間を決める、夜遅い時間には使わないなどの、ルールを作ってみるのもよいでしょう。少しでも電子機器の使用による疲れが減少すれば、質のよい睡眠がとれるようになり、学校での集中力も高まります。

早寝早起きや睡眠の質だけでなく、睡眠時間も学力と関係しているというデータがあります。ある実験では、睡眠時間が長い子どもは睡眠時間が短い子どもと比べて、脳の記憶を司る「海馬」という部分が大きいという結果が出ました。子どもは眠ることによって、脳内の神経ネットワークを形成して未成熟な脳機能を完成させたり、情報処理能力を高めたり維持したりすると言われています。つまり、成長期の睡眠時間は脳の発達に大きく関係するのです。

睡眠は、私たちの、特に子どもの健康にとってとても大事なものの１つです。もし学力が伸び悩んでいるお子様がいらっしゃるならば、勉強方法に加えて生活習慣の見直しや改善を図ってみましょう。そうすれば、より効率的に学習ができるようになるかもしれません。（文／学林舎編集部）

クロスロード Crossroad

第92回　文／吉田 良治

小さなことを積み上げが世界を制する

今年のマスターズゴルフは、プロゴルファーのタイガー・ウッズが 14 年ぶりに優勝しました。メジャータイトル(全米オープン、全英オープン、全米プロなど)では 11 年ぶりの優勝となりましたが、家庭問題、けが、そして精神面の不安定など、もうタイガー・ウッズの時代は終わったのか、と思われていましたが、今年のマスターズでタイガー・ウッズは、全盛期を彷彿させる見事なゴルフを展開しました。優勝インタビューでは“決してあきらめてはいけない。”という言葉が使われました。タイガー・ウッズは現在 43 歳、ゴルフは年齢的に長く続けられるスポーツですが、大きなスランプを乗り越えるには、“決してあきらめてはいけない。”という不屈の精神と、日々積み上げてきた努力が重要になります。

最年少でマスターズを制したタイガー・ウッズの大きな武器は、スタンフォード大学へ進学した知性、ゴルファーとしてのアスリート能力、そして自分の力を発揮するポイント、ピークパフォーマンスに長けている点です。21 歳で初めてマスターズを制し、世界ランキング 1 位も獲得しました。世界ランキング 1 位は歴代最も多く獲得(683 週)しました。しかし、11 年間低迷し一時は世界ランキングが 1199 位まで下落した中、再び世界のトップに立つまで復活するには、これらの能力とともに、日々小さなことをこつこつと積み上げてくる気骨が求められます。何かを成し遂げるうえでこれらの要素はとても重要です。

長く活躍したアスリートといえば、今年 3 月に引退したプロ野球選手のイチローも、日々の努力の継続が有名です。引退しても毎日続けてきたトレーニングは継続しているとのことですので、日々の習慣化されたことは、引退後も変わらないのでしょう。日米のプロ野球で数々の記録を打ち立てたといっても、野球の一流打者にとって 7 割は挫折を味わいます。イチローの日米通算 4,367 安打も、9,000 本以上アウトになった口惜しさが生んだものです。タイガー・ウッズと挫折の中身は違いますが、悔しい思いをした、苦しい時期を乗り越えるためには、決してあきらめない精神と、日々の努力の積み重ねが重要であることが伺えます。

男子フィギュアスケートでも挫折から立ち直り復活したアスリートがいます。日本では羽生結弦はけがによる挫折を乗り越え、平昌オリンピックで金メダルを獲得しました。そして、平昌オリンピックでメダル候補だったアメリカのネイサン・チェンは、ショートプログラムで失敗しメダルを逃しましたが、その後努力を積み重ね、今年世界選手権で 2 連覇を果たしました。現在世界の難関大学のイエール大学で医学を学ぶ学生でもあるネイサン・チェンは、文武両道を実践しながら高いレベルの努力を実践しています。日本では今年から大学スポーツを改革する、大学スポーツ協会・UNIVAS が立ち上がりました。UNIVAS では学業とスポーツのバランスを整備することが大きな柱になっています。タイガー・ウッズ同様、学業との両立をもとに復活したネイサンチェンは、日本のアスリート育成でも多様な努力の積み重ねという、新しいモデルケースになるのかもしれません。(つづく)

吉田良治さんプロフィール

1962年生まれ。1998年にワシントン大学へアメリカンフットボールコーチ留学。2000年リーグ制覇、2001年ローズボウルに出場し、ローズボウル制覇に貢献。国家レベルのリーダーシップ教育に貢献した、ランプライト元ワシントン大学ヘッドコーチよりリーダーシップ教育を学ぶ。
全米の大学で人格形成プログラム普及に貢献した、ライス元ジョージア工科大学体育局長よりライフスキル教育を学ぶ。

吉田良治さんBlog　http://ameblo.jp/outside-the-box/